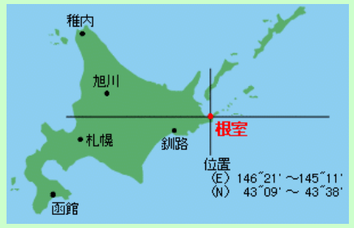
国境地域（稚内・根室・対馬・与那国）の抱える現状・課題について

財団法人都市経済研究所

		稚内市（北海道）	根室市（北海道）	対馬市（長崎県）	与那国町（沖縄県）
位置図 面積 気候 隣国		 **面積**：760.83k ㎡（市域） **気候**：年平均気温 7℃。冬期は日本海特有の気候で風雪が強く、年によっては驚異的な積雪深となる。特別豪雪地帯。 **隣国**：ロシア（樺太）／宗谷岬から樺太西能登呂岬まで約 43km	 **面積**：512.63k ㎡（市域） **気候**：年平均気温 6.6℃。冬期のオホーツク海域は、流氷に閉ざされ厳しい寒気に見舞われる。 **隣国**：ロシア（※北方四島）	 **面積**：708.63k ㎡（市域・島面積） **気候**：年平均気温 15.5℃。暖流の対馬海流が流れており、その影響で比較的平年を通して暖かく、雨が多い。 **隣国**：韓国／釜山まで約 49.5km	 **面積**：28.95k ㎡（町域・島面積） **気候**：年平均気温 23.5℃。亜熱帯海洋性気候に属し、1 年を通して気温が高く、雨も多い。 **隣国**：台湾／台湾（宜蘭）まで約 111km
姉妹都市（国外のみ）		バギオ（フィリピン／S48.3.20）	シトカ（アメリカ・アラスカ／S50.12.19）、セベロクリリスク（ロシア・サハリン／H6.1.27）	姉妹島：グアム島（アメリカ・グアム／S52.2.21）、釜山広域市影島区（韓国／S61.5.16）	花蓮市（台湾花蓮県／S57.10.8）
友好都市（国外のみ）		ネベリスク（ロシア・サハリン／S47.9.8）、コルサコフ（ロシアサハリン／H3.7.2）、ユジノサハリンスク（ロシア・サハリン／H13.9.9）	―	―	―
現状	人口 H7 年	45,754 人	34,934 人	43,513 人	1,801 人
	人口 H12 年	43,774 人（△4.3（H7 年比））	33,150 人（△5.1（H7 年比））	41,230 人（△5.3（H7 年比））	1,852 人（2.8（H7 年比））
	人口 H17 年	41,595 人（△5.0（H12 年比））	31,186 人（△5.9（H12 年比））	38,474 人（△6.7（H12 年比））	1,796 人（△3.0（H12 年比））
	産業	水産・酪農・観光が３本柱。 水産業は、ミズダコ、水産加工。酪農も盛ん。宗谷支庁の中心地として商業も発達。近年、漁業不振の影響から、観光産業への転換多し。ロシアからの活ガニの輸入も盛んで、1988 年～2005 年までの 18 年間連続活ガニ輸入日本一。しかし、ロシアが禁漁区を設定したため、2008 年に活ガニの輸入が激減。	基幹産業は、水産業。 水産業は、昭和 40 年代をピークに、各種の規制により半減。新しい海洋時代に対応するため、沿岸漁業資源の増養殖をはじめ、水産資源の高次加工などを実施。2005 年度の水揚げ量は、北海道で一位。	産業は、水産業のほか、林業、観光など。 水産業はイカ釣漁、タイやブリなどの一本釣漁や沿岸での定置網漁。ブリの養殖業や真珠養殖も。面積の 80%以上が山林という地形を生かした林業として「対馬ひのき」としてブランド展開。シイタケ栽培も。観光については、歴史・自然・文化といった観光資源や韓国との国際航路の開設、またアリランまつりなどのイベントの開催で観光客は増加傾向。	産業としては、農業、水産業、製造業、観光。 農業はサトウキビと水稲、肉用牛。水産業はカジキ（漁獲高は県随一）。製造業は、国の伝統的工芸品に指定された与那国織や特産品の泡盛、黒糖等。観光は、国内で唯一到達可能な、日本最西端地ほか、海底遺跡、テレビドラマロケ地などの資源が豊富。
	歴史	江戸時代に松前藩が、宗谷に藩主直轄の宗谷場所を開設したのが始まり。以来、アイヌの人々との交易の場、また北方警備の要所として栄えてきた。 日露戦争後の 1905 年南樺太が日本の領土となり、1923 年稚内～樺太間に定期航路が開設されてから、交通運輸の基地として発展。 1987 年には、ジェット機による東京直行便が就航。現在は大阪・名古屋直行便も就航。平成 7 年からはサハリンとの定期航路が復活。「日ロ友好最先端都市」としてサハリンとの交流が行われている。	根室の開拓は元禄年間に始まり、明治２年に開拓使松本判官が属僚 130 人を連れ来往し、根室市の基礎を築いた。 明治 13 年に郡役所と戸長役場が置かれ、同 15 年には北海道三県の一つとして根室県庁が設置され、根室の開拓が進んだが、昭和 20 年の戦災により町の大半が焼失し、更に北方領土をソ連に不法占領されたため人口は減少し、産業・経済の復興も一時は危ぶまれたが、北洋漁業を中心とした水産業で立ち直り、我が国有数の水産都市として発展してきた。	日本の中で朝鮮半島に最も近いという地理的条件から、大陸からの石器・青銅器文化、稲作、仏教、漢字等を伝える日本の窓口だった。また、朝鮮半島との間では古くから貿易などの交流が盛んだった。朝鮮半島との友好な交流の歴史の中、1592 年～97 年の文禄・慶長の役で交流が中断したが、20 世紀に入り、対馬と韓国・釜山が定期航路で結ばれるなど、文化・経済・教育の活発な交流が再開されている。	戦前、台湾との自由往来により生活物資のみならず、台湾での就学・就業も行われ、常に 5,000 名規模の人口が保たれてた。戦後台湾との国境線が敷かれた後も密貿易交流が行われ、1947 年には人口 12,000 名になり村から町へ昇格するほど繁栄した。その後、密貿易の取り締まり強化等により、1950 年以降人口流出が始まり、1972 年の本土復帰時は 2,600 名、最盛期の 7 分の 1 まで減少。その後、1981 年 4 月に一部物品のみ台湾との交易が再開され、同 10 月に花蓮市との姉妹都市を締結した。
	学校	小学校 15 校（うち中学併校 6 校）、中学校 5 校、高校 3 校、大学 1 校	小学校 13 校、中学校 7 校、高校 2 校	小学校 28 校、中学校 19 校、高校 3 校	小学校 3 校、中学校 2 校
	名物	たこしゃぶ、水産加工製品、熊笹製品、稚内牛	ハナサキガニ・サンマ等水産物,水産加工品、酒（北の勝）、エスカロップ	かすまき、どんこ椎茸、白嶽（酒）、アワビ、対州そば	泡盛（花酒）、黒糖、与那国織、塩、長命草、カジキのカンダイイユ
	特徴	最短のロープウェイ、昼の長さ等が日本一	日本最東端の都市		日本最西端の地（町）
	インフラ 空港	稚内空港 2,000m （新千歳、丘珠、羽田、中部（6～8 月）、関西（6～9 月）各空港）	―	対馬空港（福岡、長崎）	与那国空港 2,000m （石垣 JTA1 便／日、石垣・那覇 RAC4 便／週）
	インフラ 港湾	稚内港（重要港湾）（サハリンコルサコフ（運航日不定期）、鴛泊（利尻）、香深（礼文））	根室港（重要港湾）	厳原港（重要港湾）、比田勝港（地方港湾） 国外：釜山／国内：壱岐,博多	久部良港（石垣 2 便／週）
	インフラ 鉄道	稚内駅（ＪＲ北海道）	根室駅（ＪＲ北海道）	―	―
	軍事施設	稚内分屯地等（陸上、海上、航空の各自衛隊）	―	対馬駐屯地（陸上）、海栗島分屯基地（海上）、対馬基地等（航空）	―

		稚内市（北海道）	根室市（北海道）	対馬市（長崎県）	与那国町（沖縄県）
現状	国内交流	平成３年に、日本本土の東西南北に位置する、長崎県小佐々町（現・佐世保市）、鹿児島県佐多町（現・南大隅町）、北海道稚内市・根室市が四極交流盟約を締結し交流を図っている。	平成３年に、日本本土の東西南北に位置する、長崎県小佐々町（現・佐世保市）、鹿児島県佐多町（現・南大隅町）、北海道稚内市・根室市が四極交流盟約を締結し交流を図っている。		1964 年 7 月竹富・与那国親善交歓大会・舞踊大会の開催、1965 年 7 月第 2 回与那国・竹富町親善陸上競技大会、交歓会の開催、2000～2005 年子供国内交換留学実施（小学生高学年対象）（茨城県大洋村）等
	国境交流	庁内に「サハリン課」を設置し、サハリンの友好都市(ネベリスク市、コルサコフ市、ユジノサハリンスク市)との友好交流に関する業務を行っている。 また、2002 年 5 月、サハリン州ユジノサハリンスク市に稚内市サハリン事務所を設置している。 また、現在はサハリンコルサコフとの間に定期便が就航（ハートランドフェリー株式会社）している。	国際化時代に対応した根室市とロシア極東地域をはじめとするロシア連邦との教育、文化、スポーツ等の友好交流を積極的に推進し、併せて北方四島との友好交流についても推進することにより、根室市の発展と北方領土問題の平和的解決に寄与するとともに日本、ロシア連邦両国の相互理解を深め友好親善の一層の促進を図ることを目的として活動している根室市日ロ友好親善協会、根室市内に来訪する外国人の安全を確保するとともに、市民の外国人に対する不安の解消を図り、市民との良好な関係を構築し、もって国際化に向けた地域社会づくりに寄与することを目的として活動している根室市国際交流安全対策協議会などがある。	1990 年代頃から、日韓交流の拠点となるべくイベント等を行っている（対馬アリラン祭、国境マラソン in 対馬、対馬ちんぐ音楽祭など）。さらに島内の殆どの道路標識に朝鮮語を併記するなど観光客の誘致に力を入れている。 また、対馬島内の複数の中学校が韓国内の中学校と姉妹校縁組を締結しておりホームステイなどの交流をおこなっている。 釜山広域市の影島区と姉妹都市提携を結んでおり、釜山市内に市の事務所を構えている。	1982 年 4 月台湾交易再開実現(一部物品のみ)、1984 年非関税品（砂,バラス）の直輸入、1988 年 12 月姉妹都市・花蓮市より生活物資の試験輸入（1989 年まで 4 回実施）、1989 年 11 月中国厦門市に友好訪問団派遣、1990 年 5 月シンポジウム「国境交易・観光サミット」の開催・久部良漁港－花蓮港間フェリーよなくにのチャーター便運航・「与那国町文化交流団」花蓮市訪問、1992 年 7 月与那国町の児童・生徒による姉妹都市「花蓮市ホームステイ事業」開始、2000 年花連－与那国友好親善ヨットレース開催、2007 年 5 月在花蓮市与那国事務所開設
課題	人口減少	若年者の就職先がなく他都市へ流出しており、人口がここ数年は年間 600～800 人と減少幅が年々拡大している。	1975 年の 45,817 人をピークとして減少傾向をたどっており、且つ核家族化が進行している。	人口減少は昭和 35 年から続いている。高齢化率（65 歳以上の高齢者が人口に占める割合）は全人口の 22.8%で、長崎県平均の 20.8%、全国平均の 17.3%に比べ早いペースで高齢化が進んでいる。	島内に高校がないことから、中学卒業後に生徒が流出してしまい、また島内の雇用問題から、全員帰島可能な受け皿が整っていない。
	環境汚染 自然被害		エゾジカの衝突事故の増加やエゾジカによる樹木の食害が増加している。	対馬海流によって外国から運ばれたゴミ漂着が大きな問題。中国や台湾からのゴミもあるが、大半は韓国のゴミ。漂着ゴミは、プラスチック製の各種容器・生活廃棄物・漁具類が多いが、テレビや冷蔵庫等の大型ゴミもある。このような状況を改善する為、韓国から毎年、ゴミ拾いをする為のボランティアが訪問している。	与那国を含む沖縄の海岸に流れ着く漂着ゴミが、平成 10 年に比べて約 8.6 倍に膨れ上がっている。特に、中国からの漂着ゴミ（中国製）は、13.3 倍と、台湾（2.8 倍）、韓国（3.0 倍）に比べて急増していることが伺える。このゴミ処分に費用がかかることがさらに大きな問題となっている。
	産業振興	200 海里規制以降の漁業減船や酪農廃業が懸念問題	漁業は、1977 年の漁業専管水域 200 海里の設定や 1986 年の通称三角水域の漁業閉鎖、1992 年のサケ・マス公海沖獲り禁止、さらには 2001 年のマダラ漁獲割当量の 8 割削減など、相次ぐ国際漁業規制により、漁業者をはじめ、水産加工業界などの関連企業の経営や雇用に大きな影響を及ぼしている。また、沿岸漁業では、魚場範囲の縮小をはじめ、増加する輸入水産物・輸入水産加工品などによる魚価の低迷、後継者不足などが大きな課題となっている。	基幹産業の水産業は、資源減少、漁場環境の悪化等により、全体的に生産額が減少。 イノシシによる農産物の被害が拡大。 水産業、林業、農業に共通する課題として、後継者不足。	
	医療・福祉				
	物価高				
	交通	国鉄の天北線廃止や JR 移行に伴う合理化により、交通利便性が大幅に低下している。			
	国内交流	2001～2002 年度の離島ブーム時は 90 万人前後あった観光客は、2007 年度は約 65 万人とピーク時の 2/3 まで減少			
	国境交流	サハリン島を取り巻く 9 つのエリア(鉱区)で石油・天然ガスを開発するプロジェクト「サハリンプロジェクト」への参画。サハリンからの近距離にある立地条件を生かし、物流や物資供給の他、要員の交代や機材の修理のような機能を担う“支援基地”としての位置付けを実施中。	長年の未解決問題となっている北方領土問題がある。庁内には、北方領土を扱う北方領土対策・企画政策課が設置されている。	一部韓国人の領有権主張	台湾・花蓮市との定期航路開設に目指し、祖納港の国際港化に向けた規制緩和等を盛り込んだ特区指定を申請するも、テロや安全対策、密輸防止などを理由に却下される。また、SOLAS 条約を充足する汽船がなく航行が認められない。

※１･･･対馬市は、平成 16 年 3 月 1 日付で、厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町が合併した自治体である。よって、平成 7 年及び 12 年の人口は、当該 6 町の人口を合計したものである。
※参考･･･http://ja.wikipedia.org/wiki/ほか